

東アジア像の再検証から 構想する未来

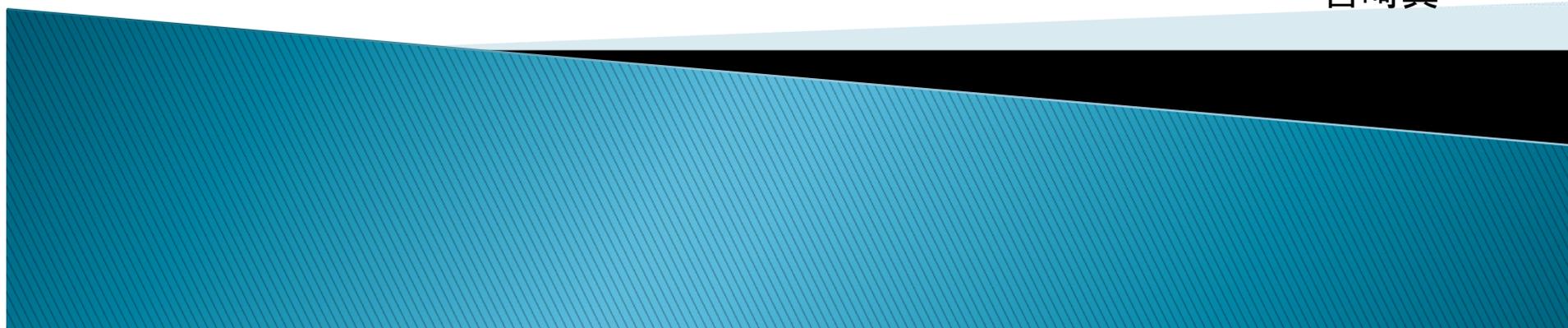
アジア歴史・文化グループ

グループリーダー・宮坂貴彦

伊藤瑛二

清水宣寿

宮崎真

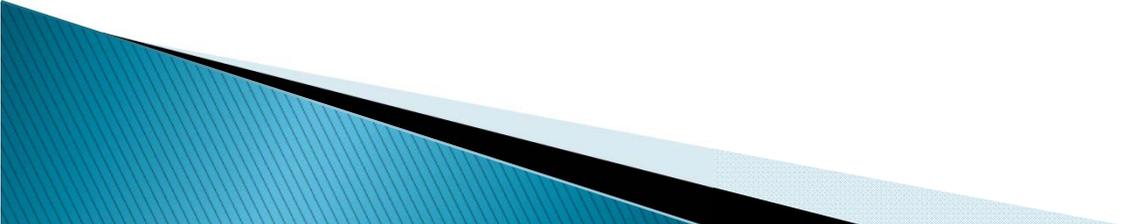


最終論文・プレゼンに向けて

- ▶ 夏合宿後、当初は各自で東アジアに関する興味・関心を見つけ、研究する作業を進めた。
⇒ 個別の関心を追及していく中で、どのように収斂させていくかが難しくなった
- ▶ 研究を進めるうちに、メンバー間の関心をグループとしてまとめることよりも、まずはこの先もインターゼミでアジアに関する研究が受け継がれることを意識して、春学期に行った「アジアとはなにか」・「アジアに関する歴史的文献の考察」を論文でまとめることにした。



最終論文・章立て

- ▶ 前書き
 - ▶ 第一章 アジアとは
 - ▶ 第二章 日本とアジアの位置関係
 - ▶ 第三章 大東合邦論と脱亜論から
 - ▶ 第四章 大東合邦論と脱亜論からその後
 - ▶ 第五章 戦後の脱亜と親亜の変遷
 - ▶ 第六章 再検証から考える現代の課題と挑戦
 - ▶ 後書き
- 

第一章 アジアとは

- ▶ アジアという概念がどのようなものであったか？
⇒もともとはヨーロッパとの対比概念であった。
- ▶ しかし、もともと“アジア”という概念のもとで一つであったわけではなく、文化も歴史も異なることは明白。
- ▶ では、“日本”はアジアをどう捉えていたか？
- ▶ 歴史的に日本から見たアジアという概念・アジア像が変遷してきた過程に注目する。



第二章 日本とアジアの位置関係

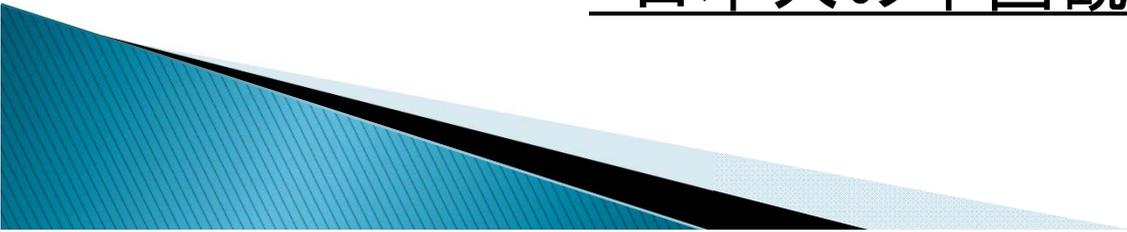
- ▶ 歴史的に、地理的に、どのように日本はアジアと関わり、アジア観を持っていたかを検証する。
- ▶ 中国・朝鮮から文化が流入していた時代、鎖国時代を経て、主に明治時代に西洋列強と対峙することになってから、日本がアジアをどう考えていたか。

⇒ e.g.) 勝海舟「氷川清話」

- ▶ また、第二次世界大戦の前後でどのように変化したかを、歴史的に重要な文献から読み解く。

⇒ e.g.) 竹内好「大東亜戦争と吾らの決意」

「日本人の中国観」



第三章 大東合邦論と脱亜論から

- ▶ 同じ年に書かれ、異なる結論に行き着いた名著である大東合邦論と脱亜論を再考する。両者の主張の違いと共に、問題意識を示す。
- ▶ 再考での解釈に当り、両者の生い立ちにも焦点を当て、同時代の著作や、国際関係論、そして両者の他の文献などを参考に大東合邦論と脱亜論の再検討を行う。
- ▶ 参考事項
- ▶ 文献 大東合邦論、脱亜論、文明論之概略、アジア主義の展望など(著者・出版年略称)
- ▶ 講演 権力の未来(Joseph S. Nye, Jr.)

第四章 大東合邦論と脱亜論からその後

- ▶ 前章での再考を踏まえて、明治から終戦までに、これらの論文がどのように影響し、どのような著作が登場し、また東アジアの情勢がどのように変化したかを振り返る。
 - ▶ **参考文献**
 - ▶ 日韓合邦(内田良平)
 - ▶ 「東亜共同体」の理念とその成立の客観的基礎(尾崎秀実)
 - ▶ 大東亜共同宣言(東条英機)
 - ▶ アジアと近代日本(伊藤昭雄)
 - ▶ The Imperial Cruise (James Bradley)
- 

第五章 戦後の脱亜と親亜の変遷

- ▶ 戦後・冷戦下の日本とアジアの関係を構想した文献の中でも“脱亜”的思想の代表である「海洋国家日本の構想」(高坂正堯著・1964年)を読み解いた。
- ▶ 戦後のパラダイム変化の中、日本が成長・生き残るすべとしての通商国家・海洋国家としての在り方が書かれている。
- ▶ この文献から、戦後の日本が対米追従路線になり、アジアとの友好関係を築けなかったことを分析します。

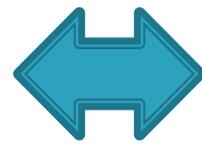
第六章

再検証から考える現代の課題と挑戦

- ▶ 明治時代、戦時下、戦後冷戦期と日本のアジア像を調べてきた中で、現代にも通じる課題と現代特有の課題を考える。
- ▶ そして、現在の決して良好とはいえない日本とアジア関係をよくするためにどういう挑戦が必要かを考える。
- ▶ 例えば、フィリピンからの看護師受入問題やCAMPUS ASIAなど現在の日本とアジアの関係が関わる問題の提起を行います。



脱亜路線



親亜路線

明治時代

脱亜論

大東合邦論

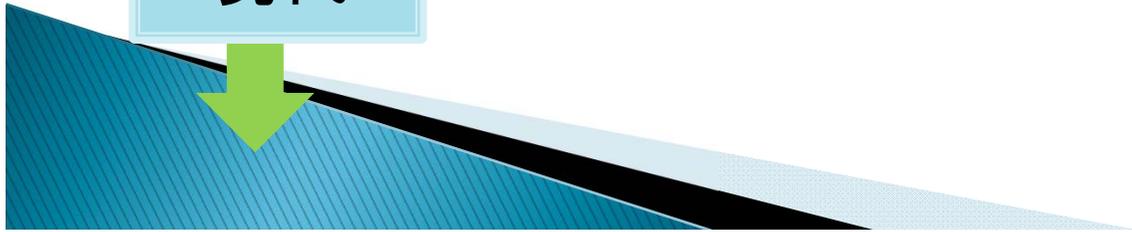
大東亜戦争と
吾らの決意

日本人の
中国観

戦後

海洋国家
日本の構想

現代



▶ ご清聴ありがとうございました。

